＜ 本日のタイムスケジュール ＞

①13:00～13:15：オープニング・開会挨拶

②13:15～14:00：「障害のない社会をつくるために」
講師：株式会社 LITALICO　兵庫、岡山エリアマネージャー　大嶋 隆寛 氏

③14:10～15:10：シンポジスト発表（各 20 分）
・NPO 法人彩　支援主任　佐藤 将一 氏
・認定 NPO 法人ポケットサポート　代表理事　三好 祐也　／　エバンジェリスト　下川 紘生

④15:20～15:50：シンポジウム「重い病気を抱える若者が働く環境づくり」

⑤15:50～16:00：閉会挨拶・まとめ

※当日の進行により多少前後する場合がございます。予めご了承ください。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

主　　催：認定特定非営利活動法人ポケットサポート（日本財団 2018 年度 助成事業）
後　　援：岡山県教育委員会、岡山市
企画協力：株式会社 LITALICO／LITALICO ワークス 岡山
制作協力：株式会社パック・ロード、株式会社プロサウンド

岡山で障害のない働き方を考える

障害のない社会をつくるために

～LITALICOワークス　就労支援の現場から～

2018/12/9

LITALICOワークス

大嶋　隆寛

自己紹介

LITALICOワークス
関西エリアマネージャー

大嶋　隆寛

1977年、兵庫県尼崎市出身。
教育分野での勤務を経て、2012年LITALICOに入社。

障害のある子供を持つ事をきっかけに、個性がより活かされる社会を目指した事がきっかけ。
LITALICOワークスでは大阪や東京のセンター長、北海道や東北のエリアマネージャーを経て、現在は兵庫エリアと岡山のエリアマネージャーと岡山のセンター長を兼務。

株式会社LITALICO（りたりこ）

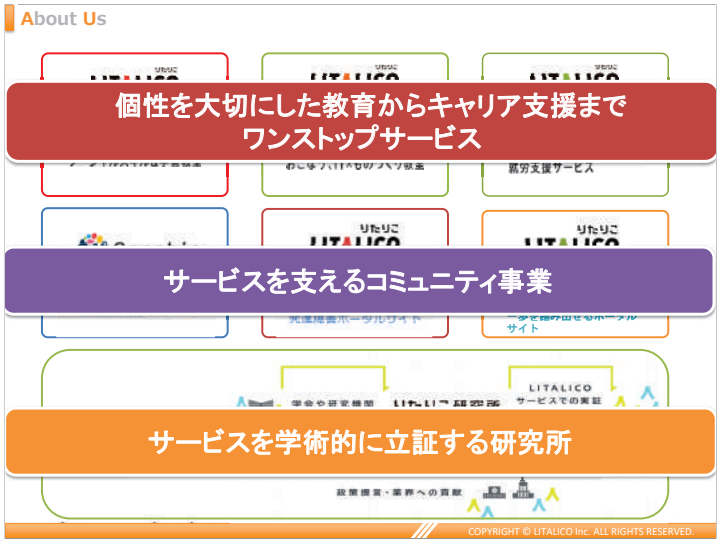
「世界を変え（利他）」　「社員を幸せに（利己）」

関わる人と社会の幸せを実現することが、
自分たちの幸せにつながる。

LITALICOのビジョン

障害のない社会をつくる

障害は人ではなく、社会の側にある
社会にある障害をなくしていくことを通して
多様な人が幸せになれる「人」が中心の社会をつくる



本題に入る前に。。。

難病とは

原因が不明で，治療方法が確立されていない疾患をいう。

適切な治療や自己管理を続ければ、普通に生活ができる状態になっている疾患が多くなっています。

「難病」という言葉のイメージから先入観をもつことなく、一人ひとりのありのままの姿を理解することが大切です。

何の数字でしょうか？？

指定難病の種類

56 ➡ 110 ➡ 306 ➡ 331

全国で197万人（平成28年度）

指定難病が対象となる助成とは

- 治療費の助成を受ける事ができる
- 看護や介護の助成を受ける事ができる
- 雇用受け入れ企業は助成金を受ける事ができる

難病の方が受けられる就労サービス

①すぐにでも就職したい！

ハローワークにおける職業相談、職業紹介

②じっくりと相談しながら、適した仕事に就職したい

相談支援センター（難病、障害者）

地域障害者職業センター

地域就労移行支援事業所

障害者総合支援法

障害のある方もない方も住み慣れた地域で生活するために、日常生活や社会生活の総合的な支援を目的とした法律です。

正式名称は「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」ですが

略して

障害者総合支援法

障害福祉サービスの概要

自立支援給付

【介護給付】

- 居宅介護(ホームヘルプ)
- 生活介護
- 施設入所支援
- 短期入所(ショートステイ)

等・・・

【訓練等給付】

- 自立訓練
- 就労移行支援
- 就労継続支援
- 共同生活援助(グループホーム)

等・・・

障害のある方

地域生活支援事業

01 社会資源について

利用条件について

■原則は下記が条件となります。
- 18歳～65歳
- 障害の診断を受けられている方
- 働く意思をお持ちの方
- サービスを受ける事で、長期就労が見込めると判断される方

手帳の有無について）市区町村によってルールが異なる場合がございます。
＞ＩＣＤ10コードの記載のある診断書
＞自立支援医療の受給者証を取得している

Copyright(C) LITALICO Inc. All Right Reserved.

01 社会資源について

利用料について

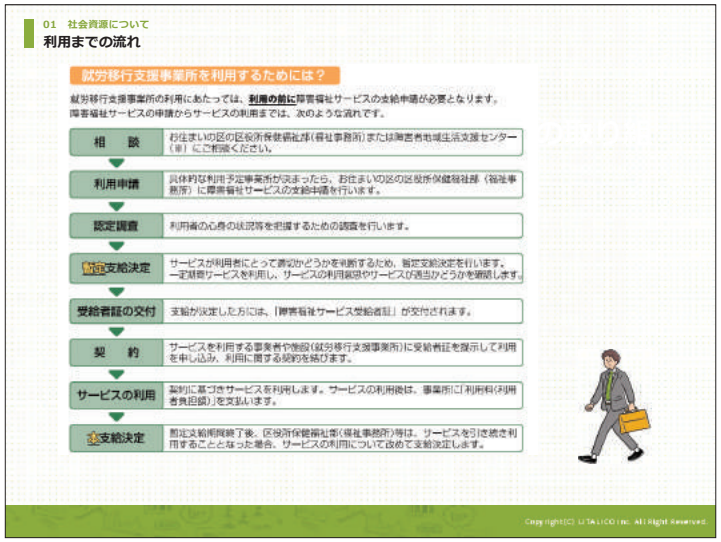
■障害福祉サービスになるため、多くの方が利用料がかかりません。
※昨年度のご本人の収入額によって、異なります。自己負担額が発生する方もいらっしゃるため、自治体にお問い合わせください。

例）3か月前まで正社員で働いていた→利用料が発生する可能性あり
昨年度の収入が600万円以下：月額9300円の負担額が発生
昨年度の収入が600万円以上：月額37200円の負担額が発生
※多くの地域では配偶者のみがご本人収入とみなされカウントされます。
親御さんの収入は該当しません。

例）生活保護を受給している→利用料なし

例）アルバイトをしていた（市町村民税非課税）→利用料なし

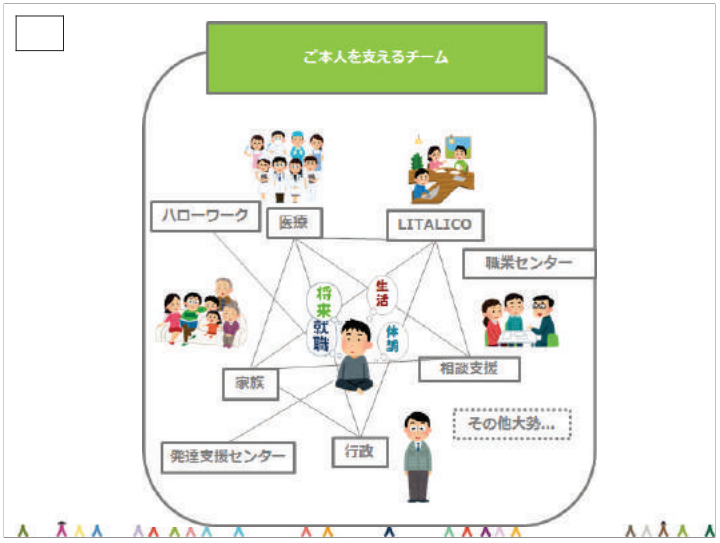
Copyright(C) LITALICO Inc. All Right Reserved.


01 社会資源について
利用までの流れ
就労移行支援事業所を利用するためには？
就労移行支援事業所の利用にあたっては、利用の前に障害福祉サービスの支給申請が必要となります。
障害福祉サービスの申請からサービスの利用までは、次のような流れです。
相 談
お住まいの区の区役所保健福祉課（福祉事務所）または障害者地域生活支援センター（単）にご相談ください。
利用申請
具体的な利用予定事業所が決まったら、お住まいの区の区役所保健福祉課（福祉事務所）に障害福祉サービスの支給申請を行います。
認定調査
利用者の心身の状況等を把握するための調査を行います。
暫定支給決定
サービスが利用者にとって適切かどうかを判断するため、暫定支給決定を行います。一定期間サービスを利用し、サービスの利用継続やサービスの適当かどうかを確認します。
受給者証の交付
支給が決定した方には、「障害福祉サービス受給者証」が交付されます。
契 約
サービスを利用する事業者や施設（就労移行支援事業所）に受給者証を提示して利用を申し込み、利用に関する契約を結びます。
サービスの利用
契約に基づきサービスを利用します。サービスの利用後は、事業所に「利用料（利用者負担額）」を支払います。
支給決定
暫定支給期間終了後、区役所保健福祉課（福祉事務所）等は、サービスを引き続き利用することとなった場合、サービスの利用について改めて支給決定します。
Copyright(C) LITALICO Inc. All Right Reserved.

LITALICOワークスについて
障害者総合支援法が定める福祉事業の１つ
利用期間は最大２年
障害のある方が就職に向けて必要なプログラムをおこないます。
個々の目標や状況をヒアリングし、個別に支援計画を作成します。
Business Manner
就労を目指す障害のある方
LITALICOワークスを利用
スキルアップし企業へ就労
パソコンやビジネスマナーなど豊富なプログラムの他、企業インターン、就職活動などをおこないます。

01 LITALICOワークスとは
サービスの流れ
そのひとりにあう「働く」をみつける
大切なのは、自分に合った就職をすること、一人で抱え込まないこと。
LITALICOワークスは、一人ひとりに合う「働く」を見つけていけるように、
その人の状況や目標、スキルに合わせて取り組むカリキュラムになっています。
サービスの流れ
01 就職準備
02 企業インターン
03 就職活動
04 職場定着
Copyright(C) LITALICO Inc. All Right Reserved.

定着支援サービス
2018年4月の法改正により、
新しく「就労定着支援事業」という制度がスタートしました。
LITALICOワークスでは、2018年10月から就労定着支援サービスを開始。
これまで
就職
就職準備や就職活動
職場定着支援（6ヶ月）
状況を見ながら支援終了
就労移行支援サービス
NEW
就労定着支援サービス（3年）
就労定着支援サービス


ご本人を支えるチーム
ハローワーク
医療
LITALICO
職業センター
将来
生活
就職
体調
家族
相談支援
その他大勢…
発達支援センター
行政

03
多様性を力に変える
就労支援へ
多様性を力に変える就労支援へ

多様性を力に変える就労支援へ

個性をいかす事例が増えることで、多様性が力に変わり、
多様性を歓迎する社会に進化、雇用の質も上がる。

個性 × 経済性

事例1	事例2	事例3
子どもたちから指名されるカリスマ店員	とことんこだわり、店舗売上200%UP	コンサル会社で社長の右腕に抜擢
アニメ好き 記憶力 × 経済性	ギター好き こだわり × 経済性	コミュニケーションの苦手な東大生 × 経済性

多様性を力に変える就労支援へ

☑その人だからこその価値を発揮　☑社会の多様性を促進していく

多様な個性 と 多様なニーズ をつなぐ

LITALICOワークスから就職された障害のある方の事例を紹介。

それぞれの悩みを持ちながら、勇気をもって一歩踏み出し、LITALICOワークスで就職を実現した方々のストーリーを集めました。

https://works.litalico.jp/interview/

ご清聴ありがとうございました

特定非営利活動法人 彩
IRODORI

彩が生まれた想い

BIRTH STORY OF IRODORI

全ての人が、本当にそれぞれが「望む」人生を歩める、そんな支援ができる場所を創らないと！！

一人ひとりにあった、個別の支援が行える仕組み、支援のカタチを創りたい！！

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

新しい障がい者福祉の
スタンダードになる！

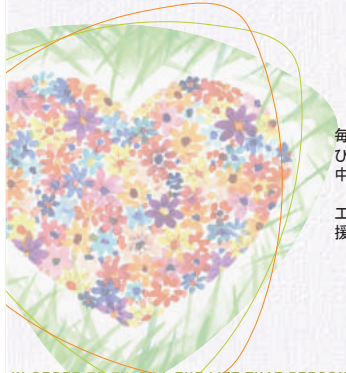
IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

事業に込めた想い

SPIRITS FOR OUR PROJECT

就労継続支援B型　いろどり

彩が始まった場所！！



毎日1日中作業をすることが本当に「支援」なのか？
ひとりひとりに必要な支援のプログラムを日中活動の中に取り入れる「個別活動」への挑戦！

工賃を稼げる作業と、利用者ひとりひとりに見合った支援の両立を実践したい

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

多機能型事業所　ここいろ

重度の障がいがあっても「働ける」「したい」をカタチにする！！

「できる」ことを見つけ、「できる」ことを少しずつ増やしながら、作業に取り組んだり、社会の中で「したい」ことができるようになるため、リハビリ活動を取り入れながら、一歩ずつ力をつける場所にしたい

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

就労移行支援　irodori

商店街という、あえて地域のど真ん中に展開

様々な人が行き交う商店街で、地域に溶け込みながら、「社会の中で生きる」ことや、一般の企業と同じ品質の作業を取り入れながら、まるで地域にあるひとつの「会社」や「製造工場」のように、実践を通じて社会に出ていくための準備をする場所にしたい

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

就労移行の役割

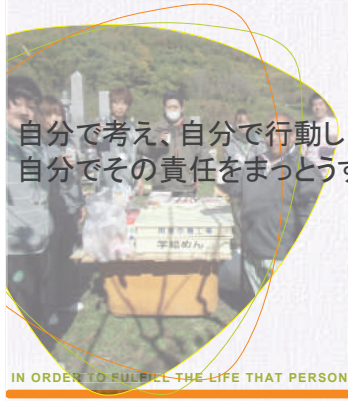
MISSION OF EMPLOYMENT TRANSITION

「就職」が目指すべきものじゃない

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

「居場所」であり旅立ちの場

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY



自分で考え、自分で行動し、
自分でその責任をまっとうすること

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS
WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

自分を知り、自分を見つけ、
自分の「活かし方」を身につける

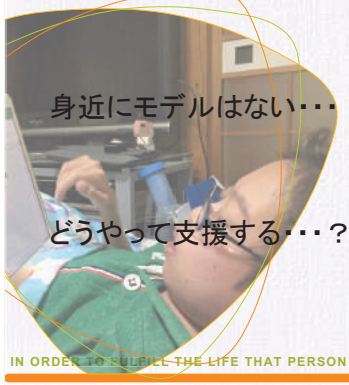
私達が支援の成果として求めるのは

人の「人生」や「未来」を創ること

支援事例

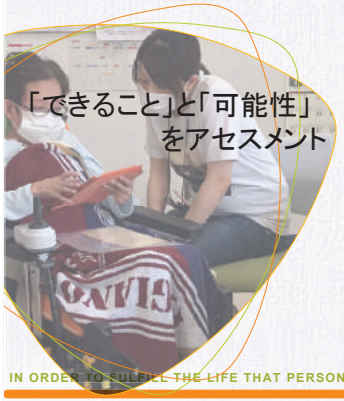
SUPPORT CASE

在宅利用の就労移行利用・・・



身近にモデルはない・・・

どうやって支援する・・・？



「できること」と「可能性」
をアセスメント

社会生活を送るための「手段」

将来イメージの構築・・・

何の「仕事」に就くか、ではなく
社会の中でどのような「役割」を
果たすのか

IN ORDER TO FULFILL THE LIFE THAT PERSON WANTS

WALK ALONG WITH THE LIFE OF EACH AND EVERY

IRODORI

最後に・・・

ONE MORE THING ・・・

PRODUCED BY IRODORI

CHIEF DIRECTOR　RYO TAMURA

NonProfit Organization corporation　IRODORI
since 2012

平成30年12月9日

病気を抱えながら社会で活躍するために必要なこと

認定特定非営利活動法人ポケットサポート
代表理事　三好祐也

プロフィール

香川県直島町出身
5歳で慢性のネフローゼ症候群発症
義務教育のほとんどを
岡山大学病院（院内学級）で過ごす

中学2年で退院し、復学後
なんとか高校を入学、その後岡山大学へ
大学院へ進学し、自身の経験から
病気の子どもの教育環境について研究

現在は、ポケットサポートを設立し
自身も通院と内服治療を続けながら
仲間たちと共に病気の子どもたちの
支援活動などを約15年にわたり行う

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

**病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち
自分らしく暮らせる社会をつくる**

病気により長期入院をしている子どもたちの抱える
「**勉強や、様々な体験をしたい**」という思い

そんな「**教育や体験の空白を埋めたい**」という
願いが「**ポケットサポート**」の名前に込められています。

子どもたちを支えるためのミッション

環境をつくる
病気を抱えていても子供らしい時間が過ごせるよう
学習・復学・自立支援ができる環境を作る

生きる力を育む
困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に「生きる力」を育む

人や気持ちを繋ぐ
病気の子どもに関わる人をつなぐコーディネートを行うと共に
社会への理解啓発を行い・理解者・支援者を増やしていく

子どもたちの声

大切な場所（小学5年）

楽しく教えてくれて
勉強がわかりやすかった
（中学1年）

入院して習ってなくて
わからないところがあった
けど、1対1だから自分の
ペースで教えてもらえて
よかった（中学3年）

こんな場所が全国に
できたらいい
（専門学校2年）

ポケットサポートに来ると
自然とやる気が出る
（中学2年）

ポケットサポートが行っている支援活動

入院病棟での学習支援
プレイブスペース

外来通院時の学習支援
ポケットスペース

ピアカウンセリングや
個別学習支援は随時実施

入院中 → 退院前 → 自宅療養 → 復学

院内学級での
学習支援補助

テレビ電話を使った
双方向 WEB 学習支援

様々な体験学習や友達と
再会できる交流イベント

**支援を行ってきた子どもたちが学校を卒業する年代になり
就労という新たな課題が出てきた**

「病気」になって入院することって？

①入院・・・急な**環境移行**
②家庭・学校・仕事など**日常からの分断**
③生活上の**制約（ルール）**
④治療・検査という**苦痛を伴う**処置

子どもの場合・・・
学校の平均滞在時間は「7時間半/１日」
教育に空白、社会的涵養の遅れが生じる

幼少期から疾患によって
様々な「空白」がある若者がいる

社会で抱える課題の一部

- **高額な医療がかかる上、教育や体験の空白で働く場や環境が限られる？**

（※小児がんの５年生存率は8割前後。先天性心疾患は100人に1人。）

- **「障害者手帳」を持てない疾患群と内部障害（内部疾患）の理解の低さ**
- **疾患を抱える人たちの困難はそれぞれ違うが「病気」「障害」というだけで敬遠しそれ以上のことを聞かない、理解しない**

一般的に考える「退院」とのギャップ

「すぐ元気に学校や仕事へ通える！」は間違い

（入退院を繰り返す人も多く、むしろ、ここからが勝負!!）

地域での生活は気をつけることが沢山ある。

◆病院：病気であることが普通
医療のスタッフもいて、安心して過ごせる

↕

◆地域：健康であることが前提で話が進みがち
何かあってもすぐに助けてくれる人が少ない

制限が守れ、周囲の理解があれば
みんなと同じ場所でも活躍ができる！

先天性心疾患のかずき君（仮）のおはなし

- 常に自分の体力を考え行動する生活
- 長期入院での学習空白があり進学するも学力不振に。
- 「部活やバイトしたら学校通えないんで…。」
- 学生時代の再入院で就職困難。

- ポケットサポートで人生初のアルバイトを経て今年度、無事就職が決まる。

小児期から疾患を抱えて大人になった若者たちが考える３つの「大切なこと」

①家族や医療者以外の理解者を作る

- 自分の生活に関わる人に理解してもらうことの大切さ

②自分の病気による困難を知り、周囲に伝える

- 病気を理解したうえで、起こりうる困難を「伝える努力」をすることと、「休む勇気」を持つこと

③選択肢（権）を持たせ、挑戦させる

- 責任を持ち、自らが「選んで」納得して「決める」経験が必要

＜当事者に向けて＞ 信頼しあい合理的配慮を引き出すために

- **社会で必要なこと**
  ⇒助けを借りながら生きていくスキルを身に着ける
- **当たり前に「助けてもらえる」と思わない**
- **企業や担当の人に対し可能な限り「自分で伝える」⇒働くのは自分という自覚**
- **見ている世界の視野を狭く持たない**
- **何より一番大切なのは「自己理解」**

＜企業や支援団体に向けて＞
仲間として受け入れるために

- 仲間になる方も、受け入れる側も「不安」は同じ
- ある企業の採用担当者の言葉
  「(病気や障害についての困難を)その人に聞く。
  それを答えらる人を採用したい。
  隠しているようでは信用ができない。」
  ⇒積極的に「聞く努力」を行う
- 一番危険なことは「誤った理解」即ち「誤解」

どの立場でもできることは
先ずは課題を「知ること」から

（課題を）知る → 理解者が増える → 支援者や仲間もつながる

理解者が増えて、関わる人が繋がっていくことによって
安心して過ごせる地域や、社会ができていくと考えています。

その第一歩は、この社会に病気を抱える子どもや若者たちにまつわる
「問題」や「課題」があることを「知ること」から始まっていくと思います。

医療が進歩したことにより
幼少期から疾患を抱えている子どもが
「若者」になっていく時代がやってきた

「病気だから仕方ない」と諦めるでなく
地域や社会は、彼らを「仲間として」
迎え入れる準備をしていきましょう

当事者、理解者、支援者として
当団体も一緒に取り組んでいきます

ご清聴ありがとうございました！

病気の子どもたちが未来に希望を持ち過ごせる社会づくりをしていくため
仲間になってくれる人は、お声かけください！！

寄付で支援する

専門知識を提供する（プロボノ）

一緒に活動する

社会課題を伝える